

平成 27 年度腐食防食学会 受賞者選定経過報告

表彰選考委員会
委員長 原 信義

本学会では、腐食防食の分野における学術及び技術の進歩発展に顕著な貢献をした会員に対して学会賞、腐食防食の分野における学術の進歩発展に顕著な功績をあげている者を講師として、会員の知識と興味を高める権威ある講演とする岡本剛記念講演、優秀な学術論文に対して論文賞、優れた技術に対して技術賞、優秀な若手の会員に対して進歩賞、加えて本部並びに支部の事業発展に貢献した会員に対して功績賞、貢献賞を贈り表彰してきている。平成 27 年度で、学会賞は第 17 回(含む協会賞)、岡本剛記念講演は第 19 回、論文賞と技術賞は第 36 回、進歩賞は第 29 回となる。

本学会の規定に従い、表彰選考委員会内に、学会賞選考委員会(委員長 原 信義)、岡本剛記念講演講師選考委員会(委員長 丸山俊夫)、論文賞選考委員会(委員長 武藤 泉)、技術賞選考委員会(委員長 中山佳則)、進歩賞選考委員会(委員長 多田英司)を設け、功績賞、貢献賞については総務会にて平成 26 年 10 月から平成 27 年 1 月にわたって慎重に審査を行ってきた。その結果、推薦された候補者から、学会賞 1 件、岡本剛記念講演 1 件、論文賞 1 件、技術賞 3 件、進歩賞 2 名、功績賞 3 名、貢献賞 9 名が選考された。

<学 会 賞>

金属材料の環境誘起割れの感受性評価ならびに割れ機構への新たな提言

西 村 六 郎(大阪府立大学名誉教授)



西村 六郎

【略歴】

西村六郎君は昭和 51 年 3 月北海道大学大学院工学研究科応用化学専攻博士課程を修了の後、4 月北海道大学非常勤講師、助手を経て昭和 53 年通産省工業技術院中国工業技術試験所に入所、昭和 58 年広島大学非常勤講師となり、昭和 58 年 8 月より 2 年間、米国マサチューセッツ工科大学博士研究員となる。平成元年東北大学金属材料研究所客員助教授として入所。平成 6 年大阪府立大学工学部助教授、平成 17 年同大学教授となり平成 25 年 3 月退官。本学会評議員、理事を数期にわたり歴任後、平成 19 年より副会長 2 期、平成 22 年より監事 2 期を歴任。平成 26 年本学会より功績賞を受賞し、現在は本学会の名誉会員。

【業績】

西村六郎君は鉄の不働態皮膜の基本構造 / 組成並びに金属・合金の孔食に及ぼす不働態皮膜のイオン選択性を明らかにするとともに、金属材料の環境誘起割れ(SCC と HE)現象を詳細に研究してきた。特に、定荷重法による腐食伸び曲線から得られる 3 パラメーター(破断時間、定常伸び速度、繊維時間)において、定常伸び速度が破断時間予測パラメーターになること、及び遷移時間と破断時間の比、定常伸び速度のオーダーなどが環境誘起割れ感受性評価の指針になることを明らかにした。これらの結果を踏まえて、金属材料の環境誘起割れを統一的に説明できる割れ機構を提案し、腐食防食科学の学理の発展に大いに貢献した。また、本会の副会長などを歴任し、本会の発展にも寄与してきた。

岡本剛記念講演

薄膜水下での電気化学計測と大気腐食研究への応用

西 方 篤(東京工業大学)



西 方 篤

【略歴】

西方 篤君は昭和 58 年 9 月東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻博士課程を修了とともに、学位(工学博士)を取得。昭和 59 年 2 月より米国アリゾナ州立大学博士研究員。昭和 60 年 4 月東京工業大学精密工学研究所助手、昭和 61 年 6 月東京工業大学工学部金属工学科助手、平成 4 年 6 月東京工業大学工学部金属工学科助教授、平成 18 年 4 月東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻准教授を経て平成 22 年 10 月東京工業大学大学院理工学研究科物質科学専攻教授、現在に至る。平成 5 年 5 月、平成 7 年 5 月に当学会(腐食防食協会)論文賞受賞。平成 10 年 3 月日本金属学会功績賞を受賞。平成 25 年 4 月スガウエザリング技術振興財団特別技術功労賞受賞。

< 論 文 賞 >

酸素欠乏地下環境における炭素鋼腐食モデリング

柴田俊夫(大阪大学名誉教授)

谷口直樹(独立行政法人原子力研究開発機構)

渡邊正敏(独立行政法人原子力研究開発機構)

清水亮彦(原子力安全研究協会)



柴田 俊夫



渡邊 正敏



谷口 直樹



清水 亮彦

【略歴】

柴田俊夫君は昭和 40 年 3 月北海道大学大学院工学研究科博士課程応用化学専攻単位取得退学、昭和 43 年 3 月工学博士(北海道大学)、北海道大学工学部助手、北海道大学講師、助教授を経て、昭和 57 年 3 月大阪大学教授、平成 13 年 3 月大阪大学定年退官、名誉教授、平成 13 年 4 月福井工業大学教授、平成 22 年 3 月福井工業大学退職。現在に至る。

渡邊正敏君は平成 12 年 3 月筑波大学大学院理工学研究科理工学専攻修了。同年 4 月株式会社ヴジブルインフォメーションセンター入社。平成 13 年 4 月～平成 15 年 3 月財団法人原子力安全技術センター。平成 15 年 4 月～平成 26 年 3 月、平成 26 年 8 月独立行政法人日本原子力研究開発機構安全研究センター、現在に至る。

谷口直樹君は平成 4 年 3 月北海道大学工学部原子工学科卒業。同年 4 月動力炉核燃料開発事業団(現日本原子力研究開発機構)入社。環境技術開発部配属。平成 26 年 4 月組織改編により環境技術開発センター基盤技術研究開発部配属。現在に至る。

清水亮彦君は、平成 2 年 3 月東海大学工学部原子力工学科卒業。同年 4 月財団法人原子力安全研究協会入社。平成 16 年 4 月同放射性廃棄物安全研究室、平成 20 年 6 月同処分システム安全研究所、平成 25 年 7 月同放射線環境影響研究所調査役、現在に至る。

【選考理由】

酸素欠乏地下環境における炭素鋼の腐食モデルの構築は、高レベル放射性廃棄物の隔離貯蔵などにおいて重要である。著者らは高温水中での炭素鋼の腐食機構を参考に物質移動モデルを導き、 Fe^{2+} 、 H^+ 、 H_2O などについて拡散定数や拡散経路を定量的に比較し、鉄酸化物や水酸化物である腐食皮膜内を H_2O が固相拡散するモデルが、実測されている腐食速度の時間変化とそのpH及び温度依存性を合理的に説明できることを見出した。この知見は、地下環境に限らず、酸素が希薄な腐食環境全般に展開できるものであり、金属材料の腐食現象の基本的理解に関する重要な指針を与えるものとして高く評価される。このため、平成27年度論文賞候補として推薦する。

<技術賞①>

塗装欠陥部における腐食を抑制する Sn 添加耐食鋼の開発

上村隆之(新日鐵住金株式会社)
前田隆雄(元新日鐵住金株式会社)
鹿島和幸(新日鐵住金株式会社)
幸 英昭(新日鐵住金株式会社)

西尾 大(新日鐵住金株式会社)
吉田直嗣(新日鐵住金株式会社)
菅江清信(新日鐵住金株式会社)
工藤越夫(元住友金属工業株式会社)



上村 隆之



西尾 大



前田 隆雄



吉田 直嗣



鹿島 和幸



菅江 清信



幸 英昭



工藤 越夫

【略歴】

上村隆之君は平成2年3月慶應義塾大学大学院理工学研究科応用化学専攻修士課程修了。同年、4月住友金属工業株式会社に入社し、鉄鋼技術研究所に勤務。低合金耐食鋼開発及び被覆防食技術開発に従事。平成9年6月～平成10年6月ドイツ エアランゲン大学材料科学科客員研究員。平成15年3月大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士課程修了、博士(工学)。平成24年10月新日本製鐵株式会社と経営統合、新日鐵住金株式会社となる。現在、鉄鋼研究所材料信頼性研究部長。

西尾 大君は平成6年3月電気通信大学大学院電気通信学研究科機械制御工学専攻修士課程修了。同年4月住友金属工業株式会社に入社し、鹿島製鉄所に勤務。平成24年10月新日本製鐵株式会社と経営統合、新日鐵住金株式会社となる。現在、鹿島製鐵所品質管理部形鋼管理室長。

前田隆雄君は昭和50年3月神戸大学大学院修士課程生産機械工学専攻修了。同年4月住友金属工業株式会社に入社し、鹿島製鉄所に配属。昭和56年7月より厚板技術部に勤務。平成26年6月新日鐵住金株式会社を退職。

吉田直嗣君は昭和61年3月大阪大学大学院工学研究科プロセス工学専攻修士課程修了。同年4月住友金属工業株式会社に入社。同社総合技術研究所にて連続鍛造プロセス開発及び凝固組織制御に関する研究開発に従事。その過程で日本ステンレス株式会社及び株式会社レオテックにて凝固プロセス研究開発。平成12年4月～平成16年3月科学技術庁金属材料技術研究所及び独立行政法人物質・材料研究機構特別研究員。平成18年6月北海道大学大学院工学院材料科学にて博士(工学)取得。平成24年10月新日鐵住金株式会社となりプロセス研究所に配属。現在、プロセ

ス研究所 一貫プロセス研究部主幹研究員。

鹿島和幸君は平成9年3月大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了。同年4月住友金属工業株式会社に入社し総合技術研究所に所属、厚板低合金耐食鋼の研究及び開発に従事。平成24年10月新日本製鐵株式会社と経営統合し新日鐵住金株式会社となる。現在、鉄鋼研究所厚板・形鋼研究部主幹研究員。

菅江清信君は平成19年3月京都大学大学院人間・環境学研究科修了。同年4月住友金属工業株式会社に入社し、総合技術研究所に配属され、厚板の耐食鋼の研究・開発に従事。平成24年10月に新日鐵住金株式会社となり、鉄鋼研究所に配属。現在に至る。

幸 英昭君は昭和50年3月東京工業大学大学院工学研究科電子化学専攻修士課程を修了。同年住友金属工業株式会社(平成24年以降は新日鐵住金株式会社)入社、研究所にて一貫して耐食材料及び防食技術の開発研究に従事。主任研究員、研究主幹(部長研究員)を経て、平成21年末に定年退職、引き続き再雇用後平成26年末に退職。この間、特に熱交用耐海水性ステンレス鋼、高合金油井管材料、原子力用ニッケル基合金の利用技術開発、ステンレス鋼の微生物腐食機構の解明、耐候性鋼の早期さび安定化処理技術の開発研究に従事。平成10年3月室蘭工業大学より博士(工学)を授与(三澤俊平教授)。

工藤尠夫君は昭和45年3月京都大学大学院工学研究科修士課程終了。同年4月住友金属工業株式会社入社、中央技術研究所配属。エネルギー関連機器材料を中心に、鉄鋼製品の腐食・防食の研究に従事。昭和55年工学博士(東京大学)。平成12年より冠研究室を主宰。平成17年定年退職。その後も非常勤として研究業務に従事。なお平成15年4月より平成22年3月まで兵庫県立大学大学院工学研究科客員教授。

【選考理由】

本耐食鋼は、塩化物が飛来する大気環境下に暴露された橋梁などの鋼構造物において、塗膜の欠陥部あるいは部材鋭角部の耐食性を著しく改善した鋼である。開発は、新たに提案した鋼の大気腐食におけるCl⁻の影響に関する基礎研究結果をもとに行なった。具体的には、SM490YB素材にSnを添加した鋼に塗装を施し、クロスカット部の剥離面積や最大腐食深さを評価した結果、Sn添加の効果(SnイオンがFeのアノード反応を抑制)が著しいことを見出した。基礎的知見から塗装用鋼材に展開した点で独創性が高い。また、塗装塗り替え期間の延長が可能であることから、実用化が始まった橋梁以外のインフラ構造物へも展開でき、社会基盤の維持・発展への貢献度は大きいことにより、本会技術賞を授与する。

<技術賞②>

化学装置の防食技術情報基盤の開発並びに技術伝承と普及

中原正大(旭化成ケミカルズ株式会社)
鈴木紹夫(すずき技術士事務所)

今川博之(今川技術士事務所)



中原 正大



今川 博之



鈴木 紹夫

【略歴】

中原正大君は昭和54年3月東北大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了。同年4月旭化成工業株式会社入社、化学プロセス開発、化学プラントの材料選定、損傷解析に従事。平成8年3月博士(工学)(東北大学)。平成18年1月腐食防食専門士(腐食防食協会)。旭化成グループ各社にて環境・素材室長、材料技術部長、メンテナンス研究所長、特級専門職を経て平成26年6月定年退職。現在、旭化成ケミカルズ株式会社に勤務。

今川博之君は昭和32年3月大阪大学大学院修士課程冶金学専攻を終了。同年大阪府立工業奨励館(現大阪府立産業技術総合研究所)に勤務。昭和37年9月東レ株式会社に転職し、化学プラントの設備診断に従事。昭和58年「高張力鋼の液体アンモニアの腐食割れに関する研究」で大阪大学工学博士を授与。昭和58年技術士(金属部門)を取得。平成7年1月東レエンジニアリンク(株)に移籍。平成12年4月定年退職。同年今川技術士事務所を開設。この間、化学工学会、日本材料学会腐食防食部門委員会で活動し現在に至る。

鈴木紹夫君は1963年北海道大学工学部応用化学科(岡本 剛教授)卒業, 味の素株式会社入社, 中央研究所勤務(北村義治主席研究員), 化学, 食品, バイオプロセス装置材料の腐食, 防食に関する研究, 及び工場現場生産設備の建設, 保守, 保全活動などに従事, この間, 1974年工学博士(東京大学, 久松敬弘教授), 1976年コネチカット大学材料科学研究所(N.D.Green教授)博士研究員, 1996年技術士(金属部門), 1999年(社)腐食防食協会副会長に就任(2年間), 2000年味の素株式会社生産技術開発センター主席研究員を最後に定年退職, ずき技術士事務所開設, 現在に至る。

【選考理由】

本技術は, 化学会社の材料技術者が化学装置を防食するため, 委員会運営を通し事例や海外技術を含む情報基盤の開発, 活用に関するものである。候補者らは, 化学装置の防食技術の共有化とレベル向上のために, 化学装置小委員会を化学会社10社の材料技術者, OB技術者及び大学関係者より組織し, 14年継続して活動している。その成果は, 事例情報を主としたデータベース, 並びに海外技術の資料を共同作成し, これらを統合した情報基盤として開発, 構築し, 委員会ホームページに掲載し活用している。また「材料と環境XX」で化学装置セッションを14年連続開催し, 加えて腐食防食シンポジウムを5回開催するなど, 本会学会活動の活性化に寄与するとともに技術伝承と育成及び技術の普及を推進している。以上の理由により, 本会技術賞を授与する。

<技術賞③>

プレコート鋼板用クロメートフリー防錆塗料の開発

松田英樹(関西ペイント株式会社)
畑中太一(関西ペイント株式会社)

児島 敬(関西ペイント株式会社)



松田 英樹



児島 敬



畑中 太一

【略歴】

松田英樹君は平成6年3月立教大学理学部(無機錯体化学研究室)卒業。同年4月関西ペイント株式会社入社。工業塗料本部技術部へ配属。その後, 技術開発本部研究部, R & D本部CM研究所にて, 一貫して工業用・汎用防食塗料全般の開発及び塗装鋼材の腐食防食機構, 塗膜耐候劣化機構, 促進試験法などの研究に従事。平成23年4月から平成25年3月の3年間, 同社上級研究員職を経て現在に至る。

児島 敬君は, 平成4年3月千葉大学工学部合成化学科卒業。同年4月関西ペイント株式会社入社。工業塗料本部技術部に配属し, 缶用塗料の研究開発・技術渉外を担当。平成18年4月に同本部技術開発部に配属。プレコート塗料全般の研究開発を担当。平成20年9月に同本部技術部に配属。プレコートカラー鋼板用塗料の研究開発を担当し現在に至る。

畑中太一君は平成6年3月名古屋大学大学院工学研究科応用科学及び合成化学専攻修士課程修了。同年4月関西ペイント株式会社入社。工業塗料本部技術部に配属, 窯業建材用塗料の設計・開発担当を経て, 平成17年4月よりプレコートカラー鋼板用塗料の設計・開発に従事し現在に至る。

【選考理由】

本防錆塗料は, 6価クロム酸系防錆顔料を含まずに, クロムフリー型防錆顔料を適用する防錆塗料である。塗料構成は, エポキシ樹脂あるいはポリエステル樹脂を基体樹脂とし, 着色顔料と主要技術である防錆顔料(5価バナジウム化合物, ケイ酸系金属塩, リン酸系金属塩の3種混合物)を含有するものである。長時間にわたり豊富なデータをもとに, プレコート鋼板の長年の課題であったクロメートフリー化に成功し実用化が進んでいる点で, 社会貢献度は大きい。また, 防錆顔料を混合系にしたことや促進試験手法についても独自性, 独創性に優れる。以上の理由により, 本会技術賞を授与する。

<進歩賞①>

化学プラントにおける材料損傷データへの統計解析適用と現場活用

栗原 朋之(旭化成株式会社)



栗原 朋之

【略歴】

栗原朋之君は平成12年東京工業大学工学部機械科学科卒業。同年4月旭化成工業株式会社に入社。平成13年旭化成株式会社となり現在に至る。

【選考理由】

栗原朋之君は、化学プラントにおける保温材下の外面腐食について、実態検査データを極値統計解析することで、炭素鋼、低合金鋼製装置の種類や使用条件と外面腐食速度の分布について詳細に検討している。その結果、腐食損傷支配要因を明らかにするとともに、外面腐食発生の可能性を精度高く推定する方法を確立した。これらの成果は、現場における腐食損傷データを有効に活用し、合理的かつ体系的に化学プラント設備の健全性、信頼性を担保するための検査計画の策定にも有効利用されるなど、技術的貢献が極めて大きい。また、同君は、「材料と環境」誌をはじめ、腐食防食学会の講演大会やシンポジウムなどで多数報告しており、腐食防食分野を担う人材として今後の活躍が大いに期待される。これらの業績は、進歩賞を授与するに相応なものと判断し、進歩賞選考委員の全員一致でここに推薦する。

<進歩賞②>

二相ステンレス鋼のすきま腐食における α または γ 相優先溶解挙動の解明に関する研究

青木 聡(独立行政法人日本原子力研究開発機構)



青木 聡

【略歴】

青木 聡君は平成19年3月早稲田大学理工学部物質開発工学科卒業。平成21年3月同大学大学院基幹理工学研究科機械科学専攻修士課程修了。平成24年3月同大学大学院基幹理工学研究科機械科学専攻博士課程修了、博士(工学)(早稲田大学)。平成21年4月より早稲田大学理工学術院各務記念材料技術研究所助手、平成24年4月より同大学基幹理工学部機械科学。航空学科助教。平成26年4月独立行政法人日本原子力研究開発機構に入社、現在に至る。

【選考理由】

青木 聡君は、近年、高耐食性が求められる社会インフラ分野において広く利用されるようになってきた二相ステンレス鋼について、そのすきま腐食過程を生起から発生段階に至るまで、詳細な観察と巧みな電気化学測定により研究している。その結果、すきま内腐食部におけるフェライト(α)相及びオーステナイト(γ)相の優先溶解の推移実態を明らかにし、これまで現象論的な報告にとどまっていた二相ステンレス鋼のすき間腐食や優先溶解に対して、すき

まの幾何学形状やすきま内溶液抵抗を考慮したすきま腐食優先溶解モデルを提案している。これらの成果は、二相ステンレス鋼のすきま腐食機構の解明に大きく貢献したばかりでなく、二相ステンレス鋼の利用促進に大きく寄与するものである。また、同君は、「材料と環境」誌や講演大会で多数報告しており、若手優秀講演賞を受賞されるなど、腐食防食分野をリードする新進気鋭の研究者として大いに期待される。これらの業績は、進歩賞を授与するに相応なものだと判断し、進歩賞選考委員の全員一致でここに推薦する。

<功績賞>



都島 良治

【略歴】

都島良治君は1972年3月九州大学工学部冶金学科を卒業。同年4月千代田化工建設株式会社に入社。自社開発の排煙脱硫装置の材料選定業務に従事。石油精製、石油化学、LNG液化装置などプロセスプラントの材料選定や適用された材料の損傷についての原因調査、対策立案などの業務に携わった。2000年4月千代田工商株式会社に移籍後もプラント材料の設備診断業務や腐食防食関連業務に従事。また、石油精製装置や化学プラントの定修工事における技術アドバイザーなどに携わり現在に至る。腐食防食学会では、理事、評議員、編集委員、講演大会実行委員、ステンレス鋼の鋭敏化曲線評価分科会委員などを歴任。金属部門の技術士。



幸 英昭

【略歴】

幸 英昭君は昭和50年3月東京工業大学大学院工学研究科修士課程を修了。同年住友金属工業株式会社(平成24年からは新日鐵住金株式会社)入社、研究所にて昭和62年主任研究員、平成9年研究主幹(部長研究員)、平成21年12月定年退職、その後5年間の再雇用後平成26年12月末で退職。現在若手研究者を指導。この間、炭素鋼、低合金鋼、ステンレス鋼、純チタン、クラッド鋼などの各種鉄鋼材料の腐食防食に関する研究開発において、特に高温硫化水素含有塩化物物溶液における高合金材料の皮膜解析と電気化学的挙動、高温水中伝熱部でのニッケル基合金の電気化学的挙動、海水中でのステンレス鋼の微生物腐食機構の解明、耐候性鋼におけるさび層の防食性の解明に従事。腐食防食学会では、理事、評議員、編集委員、関西支部長、材料と環境討論会実行委員長などを歴任。



山手 利博

【略歴】

山手利博君は昭和47年3月明治大学工学部工業化学科を卒業、同年4月株式会社竹中工務店入社。昭和48年4月より同社技術研究所に所属し、主に建築設備機器、配管の腐食防食、腐食診断技術、設備用水の水処理などの研究に従事。この間、設備配管の実態調査と事例解析による腐食要因の抽出、異種金属接触腐食防止法に関する研究、膜脱気による腐食防止効果の検証と対策、亜鉛/炭素鋼の電位逆転による局部腐食現象の解明と対策、銅管系で発生する青水現象の研究、給湯銅管のエロージョン・コロージョン現象の実態調査と対策、密閉系亜鉛めっき銅管での水素発生現象の研究などを実施。また、平成13年広島大学より博士(工学)を授与(平成14年3月広島大学大学院工学研究科博士課程修了)。平成25年3月株式会社竹中工務店を退社、現在に至る。腐食防食学会では研究事業委員会委員長、理事、編集委員、評議員を歴任。平成20年一般財団法人エンジニアリング振興協会エンジニアリング功労者賞個人表彰受賞。腐食防食専門士。

<貢献賞>



世利 修美



原 基



望月 紀保



池田 昭夫



佐藤 廣士



鶴田 孝雄



齊藤 正洋



平野 秀朗



正村 克身

【略歴】

世利修美君は東京大学工学部金属工学科を1980年卒業後、同大学院修士課程、同博士課程を1985年に修了し、1985年3月に工学博士(アルミニウム合金の腐食に関する研究)を授与される。1985年4月室蘭工業大学講師、1986年同助教授、1996年同教授昇格し、現在に至る。主にアルミニウムとその合金に関する腐食防食の実験研究に従事。現在は腐食現象を応用したナノ材料前駆体の研究に展開している。腐食防食学会では理事などを歴任。

原 基君は1982年3月東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程金属材料工学専攻修了、工学博士。同年4月秋田大学鉱山学部金属材料学科助手。講師、助教授を経て2000年1月秋田大学工学資源学部材料工学科教授、現在に至る。1990年マサチューセッツ工科大学客員研究員。高温腐食、高温酸化、表面改質の研究に従事。腐食防食学会では、東北支部長、理事、評議員、編集委員を歴任。2014年論文賞を受賞。

望月紀保君は1973年山梨大学工学部応用化学科を卒業し、同年4月中川防蝕工業株式会社(現：株式会社ナカポータック)に入社、以降、主として電気防食技術の開発、改良及び設計手法に関する研究、電位・電流分布解析に関する研究、コンクリート中鉄筋の腐食診断技術の開発などに従事、2002年技術開発研究所所長、2011年技術顧問、現在に至る。1991年技術士(金属部門)取得、1998年秋田大学大学院博士後期課程修了、博士(工学)、当学会活動は、理事、技術委員、関東支部幹事、電気防食小委員会委員長を歴任。

池田昭夫君は1965年大阪大学理学部物理学科を卒業し、同年4月に住友金属工業株式会社に入社、中央技術研究所及び本社勤務を経て、1994年4月に住友金属テクノロジー株式会社にて技師長として入社、2001年6月エムアイエムコンサルタント株式会社に入社し、2003年4月同社代表取締役社長に就任し現在に至る。1981年京都大学より工学博士を授与される。この間、主として石油、天然ガス生産用油井管、ラインパイプの腐食防食と耐食材料の研究開

発及び実用化などの業務に従事。腐食防食学会では関西支部役員を歴任。

佐藤廣士君は、1970年九州大学大学院修士課程冶金学専攻修了後、同年4月株式会社神戸製鋼所に入社、技術開発本部材料研究所表面制御研究室長、材料研究所長、取締役開発企画部長などを歴任し、2009年代表取締役社長、2013年より同会長に就任し、現在に至る。入社以来、鉄鋼、チタンを中心に耐食性改善、表面処理の研究開発を推進するとともに、産学官の連携推進や人材育成、基盤技術力の強化などを先導。腐食防食学会では、理事、評議員などを歴任するとともに、1993年に技術賞を受賞。

鶴田孝雄君は1975年京都大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程を修了、同年4月に三菱重工業株式会社に入社、高砂研究所にて、主に原子力発電プラントを対象とした高温水中の電気化学測定技術、圧力平行型外部照合電極の開発、ステンレス鋼や高ニッケル合金のSCC、炭素鋼配管のFAC(流れ加速型腐食)に関する研究などに従事。当学会活動は、高温高圧水中の電気化学測定小委員会、高温水環境の電気化学分科会、金属及び合金の逆U曲げ試験片を用いたSCC試験方法のJIS化などに参画、理事、評議員を歴任。

齊藤正洋君は、1978年東京大学工学部金属材料学科を卒業し、同年4月に三菱重工業株式会社に入社、以降、船舶、火力発電プラント、地熱発電プラント、化学プラントなどに係わる腐食・防食の研究や耐食材料の開発を担当するとともに、この分野の若手技術者の育成に貢献。2014年4月から三菱日立パワーシステムズ検査株式会社にて、非破壊検査技術を用いた機器の信頼性評価などを指導し現在に至る。

平野秀朗君は1975年東北大学大学院工学研究科金属材料工学修士課程を修了し、同年4月電力中央研究所に入所。以降、火力及び原子力に係わる水化学並びに環境脆化の対策研究に従事。1991年東北大学から博士号を授与。1993年、酸素処理法の実用化研究により火力原子力発電技術協会から論文賞受賞。1999年電力中央研究所界面科学部長。2004年、ニッケル基合金の粒界腐食割れの研究により腐食防食学会から論文賞受賞。2015年3月電力中央研究所を退職。現在は、日本学術振興・蒸気性質139委員会及び同パワーサイクル化学分科会などで活動。腐食防食学会では、評議委員、理事を歴任。

正村克身君は1975年3月東京工業大学理工学研究科金属工学専攻終了(修士)、同年4月日本鋼管株式会社入社。2014年9月JFEスチール株式会社を退社。この間、一貫して鉄鋼材料の腐食・防食の研究及び耐食材料の開発に従事。主な業績としては、耐溝状腐食電縫鋼管の開発、耐食油井管の開発、腐食への極値統計の適用などがあげられる。1993年1月東京工業大学工学博士。腐食防食学会においては、コロージョンセミナー委員、編集委員、理事を歴任。